

平成 23 年度日吉ダム環境学習会 開催報告

平成 23 年 11 月 8 日（火）の午前、日吉ダムの貯水池左岸にある千谷川周辺（原石山跡地の一角）において、今年度の日吉ダム環境学習会を開催いたしました。

千谷川周辺を含む原石山跡地は、平成 13 年度に策定された日吉ダム水源地域ビジョンにおいて自然観察の場を提供するビオトープとして位置づけられており、必要な整備を行いながら有効活用していく計画となっています。

平成 22 年度（昨年度）に同じ場所で実施した環境学習会において、今後の維持管理のあり方として、年に 1 回程度の草刈りを中心とした活動について確認されたところです。

今年度は、前回の環境学習会の講師から紹介を受け、地元日吉町の森林にも詳しい西田林業事務所の西田浩之（にしだ ひろゆき）氏らを講師に招き、次の 2 つの内容を実施しました。

- ① ビオトープにおける望ましい維持管理方法の説明
- ② 千谷川周辺ビオトープにおける下草刈り及び枯損木除去（実習）

当日は、日吉ダム管理所の職員 8 名が参加しました。



熱弁を振るう西田講師（右）

(1) ビオトープにおける望ましい維持管理方法の説明

昨年度の環境学習会において、人が立ち入る通路沿いについては草刈りを行い、人が立ち入らない場所については植生に絡まっているツル性植物を除去して林内を明るくする程度の管理を、年に1回程度で良いから実施するべきという認識を参加者間で共有しました。

学習会の冒頭において、こうした管理方法についておさらいし、さらに枯れたアカマツの木も目立ってきていることから、人が立ち入る通路沿いにあるものについては、倒木による危険防止のため除去していく旨の説明がありました。

次に、ビオトープ内を歩きながら、本日実施すべき作業について、現地の樹木や草を示しながら具体的な説明をいただきました。



説明に聞き入る参加者たち



枝払いの必要性の説明

(2) 千谷川周辺ビオトープにおける下草刈り及び枯損木除去（実習）

引き続き現地での実習として、刈払機及びチェーンソーを用いて各自で作業を行いました。

作業に先立ち、刈払機やチェーンソーの使用上の注意点、各機具のメンテナンスについての助言など、講習会等で一度は聞いているものの、普段の業務の中ではあまり意識することがないような貴重な話もお聞きすることができました。



刈払機の刃についての説明



刈払い及び伐木作業の様子

開催後に実施したアンケートでは、「非常に参考になり、環境に対する意識が高まった」との回答が多くを占めたものの、「参考になったが、環境に対する意識に特に変化はなかった」と答えた参加者もいました。

今回は野外実習を主体とした学習会であったため、実施内容は分かりやすかったものの、前回の学習会で説明したビオトープの全体計画について今回の参加者間で共有するなど、もう少し環境学習の内容を盛り込んだ学習会にするべきであったと考えられます。

日吉ダム管理所では、今回の学習会で実施したような活動を、今後も定期的に行っていく予定です。

最後になりましたが、講師を始め本学習会の開催にご協力いただいた方々に、紙面をお借りして深く御礼申し上げます。